

令和7年4月18日～22日

海外管外調査報告書



神戸市会

韓国訪問議員団

神戸市会韓国訪問議員団の海外視察報告書

神戸市会韓国訪問議員団

よこはた和幸

伊藤めぐみ

諫山大介

やのこうじ

(以上、こうべ未来市会議員団)

神戸市の韓国・仁川市及び大邱市それぞれとの姉妹都市提携及び親善協力都市提携が今年で15周年となること、また、今年4月から神戸空港で国際チャーター便の就航が始まり、その第一便が大韓航空ソウル便となることから、神戸市会韓国訪問議員団団員として4月18日より韓国を訪問し、仁川及び大邱両市において記念訪問事業を行うとともに、両市の行政や議会関係者並びに文化や経済関係者等との交流を深めて22日に帰国したところ、本訪問団の海外管外調査報告書を以下の通り提出する。

第一部 韓国訪問議員団の視察報告

1. 仁川市訪問（4月18日、19日）

(1) 仁川広域市議会への表敬訪問（18日 15:00～15:30）

<先方出席者> チョン・ヘグウォン議長、 イ・ソンオク第一副議長
イ・オサン 第二副議長、 イム・チュンウォン運営委員長
キム・テジョン建設交通委員長、 バク・チャンフン事務局長

<意見交換の概要>

① 冒頭、チョン議長より以下の歓迎の挨拶があった。

仁川広域市は神戸市同様、古くから港町として様々な国々との交易で栄えてきた都市であり、また現代では仁川国際空港により世界とつながる都市(All ways Incheon)として韓国で唯一人口も増加している街である。

今回、神戸空港が直接仁川空港と結ばれることを契機に、更に両都市間の交流を深めて参りたい。

② これに対し、吉田日韓友好神戸市会議員連盟会長は次の通り応答した。

大統領選挙を控え大変ご多忙のなか、貴議長ほか仁川広域市議会を代表する議員の皆様にお迎え頂き心から感謝申し上げます。仁川広域市とは2010年に姉妹都市の提携を行いました。松島(ソンド)地区の埋立てに際して、神戸市が進めていたポートアイランド等の埋立て技術を提供した関係があります。

また、1995年の阪神淡路大震災のおりには真心のこもったご支援を頂きました。この長い関係のなかで拝見する仁川広域市の発展ぶりは、その規模においてもスビ

ードにおいても驚異的であり、その取り組みに感嘆するところです。

③ 吉田会長より引き続き以下を述べた。

日本では韓流ブームが続き近年は K-Pop が大変好まれているということについて、音楽もファッションも様変わりし、日本の若者を中心に大変な人気を博している。神戸市もコンテンツ産業の育成を考えて参りたい。

貴議長からは神戸ビーフやキリンビールがおいしいとの話題が出たが、日本酒やワインもあり、ビーフだけではなく魚も新鮮でおいしい。「食都こうべ」のキャッチフレーズでアピールしたいと考えている。是非、神戸にお越しになりご堪能頂きたい。

神戸市からは5月の神戸まつりの案内をさせて頂いていると承知している。

- ④ これに対し、チョン議長よりは、是非伺いたいところだが、大統領選挙のため伺えないのが残念だ。ただ、今回の大統領の問題で韓国の政治行政や経済活動が混乱しているのではないかとのご懸念があるかもしれないが、われわれ政党関係者は選挙で忙しいのは事実だが、社会経済活動は混乱もなく、安定していることをご理解頂きたいとの話があった。



チョン仁川広域市議会議長、代表議員とともに
(仁川広域市議会棟正面エントランスにて)



仁川広域市議会表敬 挨拶・意見交換を行う（議会棟2階接見室にて）

(2) 仁川・神戸音楽コンサート (18日 17:40~18:10)

仁川広域市が在外韓国人のための「在外同胞庁」を国に働きかけて誘致し、運営しているのが、「在外同胞庁ウェルカムセンター」である。今回、そこで神戸市からの韓国訪問団全員を招いて神戸市から同行した音楽家と仁川広域市管弦楽団のメンバーとの交流コンサートが開催された。

広域市とはいえ、自治体で管弦楽団を運営していることに音楽に対する取組の真剣さが感じられた。国が音楽をはじめ様々なエンターテインメントの振興を文化の輸出を通じて取り組んでいることの一端を垣間見ることが出来た。



神戸訪問団の演奏家と仁川市立協奏楽団による演奏を聴く
(在外同胞庁ウェルカムセンター30階にて)

(3) 仁川広域市主催レセプション (18日 18:40~20:00)

夕刻より仁川広域市主催のレセプションが行われ、最初に黄孝鎮 (ファン・ヒョジン) 副市長が主催者あいさつを行い、小原一徳神戸市副市長からは御礼のあいさつが述べられた後、懇親の場を設けてくださいました。

仁川市側からは、ファン副市長をはじめチョン・ヘグォン議長、パク・ジュボン仁川商工会議所会長、キム・ヨンシン国際局長、カン・ソンジュ国際協力課長の出席のもと、神戸市側からは日韓議連の議員をはじめ交流訪問団が一堂に会して、友好的な意見交換の場となりました。

(4) 仁川大公園（19日 9:30～10:30）

韓国・仁川広域市に所在する仁川大公園を視察した。本公園は、自然と教育、芸術が融合した多機能型都市公園であり、市民の憩いの場として極めて高い水準で整備・運営されていた。

園内には多様な樹種が配置されており、それぞれ丁寧に剪定・管理がなされていることが印象的であった。整備が行き届いた景観は、美観だけでなく安全性や快適性にも寄与しており、都市緑地の模範となる事例である。加えて、園内には温室が設けられており、熱帯植物や多肉植物などが展示されている。単なる鑑賞目的にとどまらず、環境教育や地域の自然学習の場としての役割も果たしている点は、都市公園の可能性を広げるものといえる。

また、園内各所に設置された現代アート作品は、いずれも自然と調和するよう設計されており、芸術と環境が共存する空間づくりが意識されていた。特に、来園者の導線や視界の抜けを活かしながら配置された作品群は、都市公園における文化的価値の創出という点で高く評価できる。

その中には、神戸市が仁川広域市との姉妹都市提携を記念して寄贈したモニュメント「Home」がある。異なるスケールの家型構造を融合させたステンレス製のフレームで構成されている。こうしたモニュメントの設置は、神戸市と仁川市の間に築かれてきた友好と信頼の歴史を、目に見えるかたちで市民の記憶として定着させている。

以上のように、仁川大公園は、都市の中に自然、芸術、教育、国際交流の諸要素をバランスよく統合した先進的な公共空間であり、神戸市における今後の公園整備や都市緑地政策の参考となる多くの示唆を得ることができた。



(5) 仁川スマートシティ・オペレーションセンター（19日 13:30～14:30）

仁川経済自由区域（IFEZ）は、2003年に韓国政府が設置した国家戦略的な経済特区であり、松島・永宗・青羅の3地区から構成される。IT、医療、物流などの先端産業の誘致を進め、グローバルなビジネス拠点として発展を続けている。中でも松島は、スマートシティの国際的モデルケースとされ、都市全体がICTを活用した統合運営の実証の場となっている。

その中核を担う「スマートシティ・オペレーションセンター」は、仁川市が出資・所有しており、都市全体をリアルタイムで把握・運営する司令塔として機能している。センターでは、CCTVカメラや各種IoTセンサー、交通情報装置を通じて収集されたビッグデータをもとに、防犯・防災、交通管理、環境監視といった都市機能が一体的に制御されている。実際に、こうした統合的な都市管理によって犯罪率や事故発生率は約19%の減少を記録しており、その効果は具体的な数値としても表れている。



現場では、リアルタイムの映像監視を通じて不審な行動や緊急事態を即座に把握し、警察や消防と連携した迅速な対応が可能となっている。カメラ映像は単なる犯罪抑止にとどまらず、迷子になった子どもや徘徊する認知症高齢者の早期発見・保護にも活用されており、市民の安全と安心に貢献している。また、火災検知においては、煙や熱を感知するセンサーと緊急通報システムとの連携により、発生地点の即時特定と避難誘導が行える体制が整備されている。

こうして蓄積された膨大な都市データは、安全管理にとどまらず、新たな産業振興にも活かされつつあるという。具体的には、センターで得られたビッグデータをもとに、スタートアップ向けの新事業創出が始まっており、都市運営と経済政策が有機的に連動している点は特筆に値する。

なお、AI技術の活用も進められてはいるが、現在のところ補助的な役割にとどまり、基本的な判断や対応は人間が担っている。とりわけ、AIによる犯罪検出の精度を高めるには、過去の犯罪映像を用いたディープラーニングが必要とされるが、実際の事件の映像を学習データとして使用するには、被疑者本人の同意が必要となるなど、法的・倫理的なハードルが存在しており、技術の実用化には慎重な対応が求められている。

総じて、オペレーションセンターは都市の安全と利便性を高めるだけでなく、都市経営そのものを革新する拠点として機能しており、日本におけるスマートシティ施策においても極めて有益と感じた。

(6) 仁川内港サンサン(想像)プラットフォーム視察 (19日 15:00~16:00)

仁川サンサンプラットフォームは、1883年の仁川港開港以降、韓国の近代化と貿易の中心地として成長し、その中心に位置していた穀物倉庫は、2024年に「サンサンプラットフォーム」として、新たなランドマークとして生まれ変わったとの事。神戸市のデザイン・クリエイティブセンター神戸「KIITO」のような施設。



その施設内で、仁川市ルネサンス企画課 氏より、写真パネルを使って以下の「仁川港内港再開発事業について」の説明を受けた。

(説明の概要)：仁川市で、1883年に開港した内港(当時、済物浦港)は、海上物流中心港の機能を果たしていたが、2000年以降、国際貿易環境が、バラ積船から大型コンテナ船中心に変わるなどの時代の変化に伴い衰退したため、仁川内港の再開発事業が行われた。港湾機能は、松島(ソンド)神港等に再配置した。仁川市と仁川港湾公社、仁川都市公社は、2028年までに内港1・8埠頭に広場・道路・上下水道等基盤施設を造成した後、文化・観光など複合施設建設を本格化する計画。

劉正福(ユ・ジョンボク)市長の公約であり、旧都心開発事業である「済物浦ルネサンスプロジェクト」の先導事業。国内初の地方自治体が主導する公共港湾再開発事業となる。この他に内港2・3・6埠頭再開発、仁川駅・東仁川駅複合開発を皮切りに、2040年までにテーマ別観光名所化、世界最大文化複合施設キューブ(K-ube)造成、済物浦(中区・東区)一帯10分生活圈構築等を計画している。

「仁川港内港の再開発事業について」

1. 仁川港内港の再開発マスタープラン

□推進背景

- ・(港湾機能の衰退) 港湾物流船舶の大型化、仁川新港の建設などにより、関門通過が必要な内港機能が徐々に弱体化
- ・(経済活性化の必要性) 遊休化する港湾跡地を対象に段階的な再開発事業を行い、海洋文化を楽しめる都心空間に変換することで新しい経済拠点を形成



⇒2040年を目途に仁川港内港の再開発マスタープランを作成(2023年12月)

□マスタープランの基本構想

- ・(第一段階：1・8埠頭) 旧都心・開港場にある文化資源を活用した特化地区
- ・(第二段階：2・3・6埠頭) 体験型・滞在型の水辺文化観光を中心とする特化地区

- ・（第三段階：4・5・7埠頭）未来の産業成長基盤を支える特化地区

□主な内容

- ・港湾施設の段階的閉鎖、各段階別に推進する再開発計画の策定
- ・12 km規模のハーバーウォークを整備して水辺のアクセスが容易な親水空間を造成
- ・周辺旧都心を考慮した複合都市空間の造成、これまで断絶されていた交通動線システムの連携



2. 仁川港内港1・8埠頭の再開発

□事業の概要

- ・（面積）429,128 m²（公共用地 50.2%、売却用地 49.8%）
- ・（期間）2024 年～2028 年（2025 年着工）
- ・（総事業費）5,906 億ウォン（国債 283 億ウォン）
- ・（主要機能）住居・商業・文化複合施設・公園・広場等のインフラ造成
- ・（事業の推進主体）

構成	仁川広域市（代表）	仁川都市公社	仁川港湾公社
	・事業施行者代表	土地の収用及び保障	土地所有者
業務	・事業計画の整備	造成土地の供給	設計及び工事
	・都市計画など行政支援	投資誘致	港湾の運営
持ち分	15%	15%	70%

□法的根拠

- ・港湾再開発及び周辺地域の発展に関する法律(海洋水産部)

□事業内容

- 公共の役割強化、仁川市が主導する港湾再開発の推進
 - ・水辺遊歩道、公園、広場など公共用地が5割以上を占める開発
 - ・周辺旧都心との連携強化を図る歩行デッキの造成
 - ・韓国型 White Zone 制度の活用など、周辺旧都心の均衡発展の推進
- 再開発事業の段階的推進、港湾再開発と港湾運営の共存
 - ・第一段階（1・8埠頭）、第二段階（6・7埠頭）第三段階（2・3・4埠頭）の順に再開発事業を推進
 - ・全体の再開発事業が完了するまで港湾の運営を併行
- その他：
 - 第一段階、第二段階、第三段階、トータルの総事業費は、3兆3000億ウォンとなる。

2. 大邱市訪問（4月20日，21日）

（1）軍威三尊石窟（国宝）（20日 15:40～16:40）

大邱広域市の案内で、国立公園内にある国宝である軍威三尊石窟を視察した。統一新羅初期の石窟寺院で、7世紀に建立された自然の絶壁の地上 20m のところにある洞窟の中に三尊仏が祀られている。

現地説明者から、この地域で激しい戦があり、そこで失われた命の鎮魂のために祀られていると説明があった。敷地内には、石塔やお堂、その他にも市の無形文化財になっている仏像があり、参道には飲食店や、野菜などを売る行商人がいて、現地では地元の信仰の対象になっていると感じられた。

国宝の石窟は、建立当初、地上から 20m に位置したが、敷地の造成工事などの結果、現在は地上 10m のところにあり、年に 1 回だけ階段の上で参拝ができる。今回は、大邱広域市のご厚意で各団体の代表者が特別に階段上で仏像の近くまでいき拝観をした。



神戸国際音楽祭に繋がる行事として開かれた韓日交流音楽会に参加をした。大邱の音楽家と神戸の音楽家で進行も演奏もしており、両市の友好関係の深さが見て取れた。演奏については、フルートアンサンブルに加えて、

また、発達障害者によるカルテット演奏があり、インクルーシブな設えとなっていた。事前に観客からの声援の掛け方についてレクチャーがあり、会場が一体となるような工夫もされていた。音楽を通して大きな可能性を持った青少年の育成と、感性をさらに磨き育む、テクニックのみにとどまらず、豊かな音楽性を秘めたユニークな個性の発掘を目指す KOBE 国際音楽コンクールの主旨に沿った内容であったと感じた。音楽が人に与える力を改めて感じ、本市として毎年コンクールを実施する意義を理解するきっかけになった。

후쿠에루도 도시 대공관 大阪府立大 興隆協力都市 大田公 神戸市 15周年
ROKU 大阪府立大 ROSS PRESENTS KOBE 国際音楽祭 2025 PRESENTS

대구 X 고베 플루트앙상블 교류연주회
『KOBE 국제음악제 2025 'PRESENTS' 용원 콘서트』

한일 교류음악회 韓日交流音楽会


 김경호
장유 張維


 김경소
유안호 劉安浩


 이인종 李仁宗


 김응호


 김은정 金恩貞


 후쿠오카 플루트앙상블

2025. 4. 20, SUN. 6:00PM
봉산문화회관 가온홀

주최: 大阪府立大 興隆協力都市 大田公(고베시)
 후원: 大阪府立大 興隆協力都市 大田公(고베시)
 후원: 大阪府立大 興隆協力都市 大田公(고베시)
 후원: 大阪府立大 興隆協力都市 大田公(고베시)

입장료: 17세 이상 10,000원 / 10세 이하 5,000원

(3) 道東書院（トドンソウォン）視察（21日 10:30～11:30）

道東書院は、かつての日本の私塾的なものであり、紹修書院（慶尚北道榮州市）、玉山書院（慶尚北道慶州市）、陶山書院（慶尚北道安東市）、屏山書院（安東市）とともに韓国五大書院の1つである。2019年7月、5つの書院を含めた9カ所が「韓国の書院」として世界遺産に登録された。1568年、朝鮮時代初期の著名な儒学者、金宏弼（キムクエンピル）を祀るため、琵琶山（ピスルサン）の東の麓に建立されたが壬辰倭乱で焼失。再建の後、1607年、金宏弼の功績が讃えられて扁額を賜り、道東書院となった。朝鮮時代末期に書院撤廃が行われたが、全国で撤廃を免れた47の書院の一つとして現在も当時のままの姿で残っている。

朱塗りの立派な水月楼（スウォルル）を抜けて階段を上がると喚主門（ハンジュムン）がある。頭を低く下げるようにしてくぐる小さな門の奥には、かつて学者たちの学びの場所であった中正堂（チュンジョンダン）があり、「道東書院」の扁額が掲げられている。

現地訪問時には、ちょうど地元の子どもたちが、中正堂での座学や昔の遊び、餅つきなど体験していた。神戸市立の小学校でも低学年を中心に、人生の先輩からこま回しや羽子板など、体験を通して昔の遊びを学ぶ機会がある。子どもたちの日々の学習内容の精選が進む中ではあるが、現地の子どもたちの楽しげで豊かな表情を直接に目にし、やはり机上の学習だけでなく、先人が学んだ場所での体験活動を通して学びを継承していくことの大切さを再確認する機会となった。



(4) 大邱広域市議会議長表敬(21日 14:00~14:30)

はじめに、吉田日韓友好神戸市会議員連盟会長より、これまでの神戸市との友好や前回の大邱市訪問時と比べ、まちの様変わりに大いに驚いたとしたうえで、今後も神戸市と大邱市との交流をさらに深めていきたい旨述べた。これに対し、イ・マンギユ大邱広域市議会議長より以下の答礼の挨拶があった(イ・ジェファ副議長、キム・ウォンギユ副議長、各常任委員会からも5人の委員長が同席)。



神戸・大邱との提携を締結した両都市は、この15年間において様々な分野での交流を通して、信頼と友情を深めてきた。今後も両都市はお互いに心強いパートナーであり、インスピレーションを与える存在として様々な分野で共に協力し、飛躍と成長をしていくことを願っている。重ねて神戸市会韓国訪問議員団の大邱への訪問に感謝する。

この後、両市議員同士の意見交換が行われ、河南日韓友好神戸市会議員連盟副会長からは、韓国語で作成された「神戸まつり」と「神戸国際音楽祭」のパンフレットをもとに、是非5月18日の神戸まつりをはじめ神戸国際音楽祭等に、大邱広域市議会のみなさんで神戸に来ていただきたい旨述べた。

これに対し、大邱広域市議会議員団からは、現在、大邱空港から関空、成田便はあるが神戸には直接行けないとの声がある、是非とも神戸空港への直行便を吉田日韓友好神戸市会議員連盟会長とイ・マンギユ議長のお力で実現願いたい旨の要望が述べられ、表敬を終えた。



大邱市議会関係者に配布した神戸まつり等のパンフレット

(5) 大邱スマートシティセンター視察（21日 15:20～16:00）

スマートシティセンター研究員の さんから、以下の説明を受けた。

大邱市では、行政やオペレーションセンターがレンタル網ではなく、自社通信網を使用することによるコストの削減、CCTV での情報の安心・安全な収集等のメリットがある。訪問したスマートシティセンターにはそのデータハブがあり、あらゆるデータを蓄積・処理し、ビッグデータ解析を行っている。CCTV から交通状況の把握をし、混雑具合によって信号をコントロールすることも可能にしている。

※CCTV(closed-circuit television)とは、特定の建物や施設内で、入力装置（カメラ）から出力装置（モニター）までが一体となって接続されているシステム。監視・防犯用のカメラとして取り入れられている。

大邱市は、2018 年から韓国国家事業としてスマートシティに取り組んでいる。未来の4次産業革命とスマートシティを目指し、大邱市全域で既存賃貸通信網から市が直接設置・管理する自家通信網に改善。行政・苦情・交通・災害・環境・福祉・CCTV・Wi-Fi・IoT などの多様な市民向けサービスの安定性とセキュリティを強化した。

大邱市全域に 715km の情報通信網を走らせており Wi-Fi スポットは 1,000 か所ある。情報通信、人工知能（AI）などを活用し、交通渋滞や公害、犯罪などの課題解決に取り組むためのスマートシティを目指している。

経過としては、2017 年から 2018 年に 61 億円をかけてインフラを整備した。交通・防犯・災害・環境・福祉など5つの都市プラットフォームを構築している。2018 年には、地下1階から地上8階の大邱スマートシティセンターが建設された。このスマートサービスの欠点として、駐車・停車に関する取り締まり用のセンサーが道路上にあるため、道路工事のたびに付け外しの必要が生じる点である。

ガス・電話・電気・水道の通信網も大邱市が作り、これらインフラの地下埋蔵物の管理システムも、タグをつけて遠隔で検査出来るなど、スマート化している。

人工知能を通してデータを集めており、交通量削減は、アルゴリズムで 15%改善された。大邱の地下鉄・バス・タクシーなどの交通データ分析で交通システムを構築する。警察パトロールもこのシステムを取り入れている。このシステムは3つの国際的認証を獲得しており、企業へはテストネット、生活・交通データを解放している。

光通信センターは 250 か所、交差点の状況も監視、AI で感知しているエリアもあるなど、大邱は他都市に先行して取り組んでいる。



(6) 大邱広域市主催レセプション (21日 18:00~20:00)

21日夕、ホン・ソンジュ大邱広域市経済副市長主催レセプションが開催された。

(先方出席者：パク・ギファン経済局長・キム・ヒョンジン国際通商課長・キム・ジンス国際交流チーム長・ベ・ジヒョン主務官・ヨン・ジュンフム主務官・大邱演奏家3名など。当方よりは訪問団全員56名が参加)

①冒頭、ホン・ソンジュ経済副市長より以下の歓迎の挨拶があった。

この大邱市と神戸市との友好15周年提携記念のために神戸市各界を代表する方々が多数訪問されたことを歓迎するとともに感謝する。大邱市と神戸市が互いに友好親善を深め、今後、往来がますます活発となり、100周年までさらに両市間の友好が築かれることを願っている。

②以上に対し、小原副市長より以下の答礼の挨拶があった。

提携15周年の友好関係に感謝し、今回訪問団の皆様と、神戸空港から仁川国際空港がつながり訪問ができた。昨夜はフルート奏者によるコンサートも行われ、今年は神戸で国際音楽祭が開催される。音楽や文化を通じた交流も深めていきたい。今後は、この大邱市とも直行便でつながるようになれば、より友好関係が進むと思う。今後の友好も更に深まるように、これからもよろしくお願いします。

この後、韓日交流音楽会に参加した演奏家によるフルートやピアノの演奏も行われ、終始和やかな交流が行われた。



第二部 韓国訪問団員所見

1. よこはた和幸議員

仁川

2003 年韓国で初めて経済自由区域として指定された仁川経済自由区域は、現在人口 42 万人（14 万世帯）で当初計画の 54 万人へむけて増加傾向です。自由区域は 3 つの区域に分類されています。

松島国際都市（IT、バイオ、先端知識サービス地区）、永宗国際都市（空港のある地区）、青羅国際都市（金融グローバル地区）に分かれています。

特に金融で北東アジアの拠点となるべく、海外からの投資を積極的に受け入れていました。海外投資を進めるために、多くの規制緩和や大胆な法整備を整えています。外資が 30% ある企業には、5 年間の関税免除、15 年間の取得税や固定資産税の免除、30% を上限とした、現金支援など多様な優遇税制措置が施されています。また、海外の方々が暮らしやすいように教育機関をはじめとする住環境整備が整えられていました。また地域ごとに、大きめのホテルが整備されており往来が多くありました。

さらに、スマートシティ基盤施設を運営センターで一括管理するなど進んだ技術が取り入れられていました。

神戸では、医療産業都市が特区にあたります。海外企業の誘致のためには、現在の状況よりも、さらなる規制緩和や法整備が必要と考えます。関税や取得税などのインセンティブをはじめ方策を検討せねばなりません。仁川自由区域整備の財政負担は国からのものも多い状況です。神戸もインセンティブや税優遇は国との連携がさらに必要となってきます。

また海外の方を受け入れるためには、教育関連をはじめとした住環境整備もさらに必要です。神戸に足りないものはホテルです。空港の国際化を機に、医療産業特区を活かして、さらなる産業の誘致を加速化させるには、税優遇や住居やホテル、教育環境整備が必要と感じました。

大邱

大邱市は韓国の自治体の中でも、早い時期からスマートシティに取り組んできました。ICT や AI を活用して、交通渋滞や、犯罪などの解決や市民の生活向上などの情報を提供する未来型都市を目指しています。大邱市内 200 以上の交差点でリアルタイムに情報収集しており、空いている道を選択して渋滞を避けて移動できるなど利便性は高いと感じました。また大邱市 900 キロを光通信網で結んでいます。仁川同様、進んだ技術が見られました。

日本でも地方都市と民間がコラボしてスマート化を進めていますが、スケール感の違いがあります。どうせやるなら大きな規模でやるために、国の協力や民間の力も必要です。特区同様国との連携が必要不可欠です。

東大邱 KTX（新幹線駅）周辺では大規模開発が行われています。周りには古き良き下町の色を残しつつ、デパートなど巨大集客施設もあり賑わっていました。また ICT も進んでいました。神戸でも新幹線の止まる新神戸駅周辺で ICT を駆使したり集客施設がある駅にするべく、国や民間の力を借りて再開発を行う必要があると感じました。また朝鮮時代から漢方・薬剤と草を販売する市場を持つ都市としても有名です。医療産業とのコラボも大いに可能性があるものと感じました。

2. 伊藤めぐみ議員

このたびの視察は、神戸市にとって悲願の神戸空港国際化による韓国への第一便で仁川広域市、大邱広域市を訪問することが出来た。日韓国交正常化 60 周年の年でもあり、神戸・仁川/神戸・大邱の都市提携 15 周年交流訪問団のメンバーとして参加した。

14 年前の 2011 年 11 月の訪問団にも参加させていただいたが、仁川市内のマンションやオフィスビルが林立している風景、スマートシティの取り組みが進められている状況を視察し、14 年の歳月で都市が勢いよく発展しているのを感じた。

仁川国際空港は世界につながるアジアのハブ空港であるため、これからは仁川国際空港経由で神戸へ世界から訪問してもらえるように取り組んでいきたい。

視察先として、仁川市と大邱市でスマートシティセンターの運営状況を視察した。韓国では 2018 年から、国家事業としてスマートシティに取り組んでいる。

人口 236 万人でソウル、釜山に次ぐ、韓国第 3 の都市である大邱広域市。こちらの大邱スマートシティセンターでは、大邱広域市内の様々な情報が集約されていた。生活の安全や交通渋滞緩和、犯罪抑止のために情報通信インフラ網が整備されているのを見て、水道メーター検針などまだまだ人手に頼っている日本に、参考にできるシステムであると思った。神戸市では市民の安全安心のための防犯カメラ設置が進められており、犯罪抑止効果と事件の捜査に必要ではあるものの、犯罪および危険な事象の未然防止には至らない。今後リアルタイムで情報を把握し、認知症患者の徘徊や路上での安全を確保するための防犯カメラシステムを一括管理して、危険があれば警報を鳴らすなどの技術の進歩が必要だと考えた。今回、韓国の先行事例を視察させていただき、日本でも将来、システム開発や技術の進歩で、さらに人手不足の未来でも安心なまちづくりが出来るのではないかと示唆する視察となった。

また、ユネスコ文化遺産である『道東書院』を訪問したが、「先礼後学」という意味のある“換主門”という門があり、くぐらないと入られない門を通して、礼儀を重んじて学問を学んでいたという説明が印象的だった。見る価値のあるユネスコ文化遺産ではあるが、観光客を誘致するには移動距離が長いこともあり、訪れている人は少なく、地元の子どもたちが集団で学んでいたのも、神戸市でも価値ある文化財や美術館や博物館での学びなどを、さらに子どもたちに学んでもらえる仕組みを作りたいと考えた。

時の大統領によって日韓関係も変化があるが、脈々と流れる平和な日々の暮らしを保つためには、草の根の外交、草の根の友好関係の必要性を感じた。この後、韓国は大統領選が控えているため、仁川市議会も大邱市議会も忙しくなりそうということだが、選挙が終われば、ぜひ仁川空港から神戸へ来ていただきたい。

今後も、医療や防災、防犯など、日々の市民生活に直結する課題については情報交換し、技術提携するなど、互いに有益になるよう取り組んでいきたい。

3. 諫山大介議員

4月18日（金）より国際化された神戸空港より、仁川空港行き国際チャーター便第1便（大韓航空：KE732）に搭乗し、仁川広域市との姉妹都市提携、大邱広域市との親善協力都市提携がいずれも15周年になるのを記念した訪問団の1人として参加しました。

○神戸空港第2ターミナル

朝のボートライナーが混雑しているので、マリソニアシャトル（バス）で快適に神戸空港へ。初日という事もあり、機器の扱いなどオペレーションには不安がありましたが、概ねスムーズに搭乗できました。コンパクトな空港であることから、歩く距離が少なく高齢者にも優しい動線ですが、飛行機の搭乗口までバスで移動しなければならないのは、不便と感じました。

○韓国・仁川広域市訪問

仁川広域市議会を日韓議連として表敬訪問しました。チョン・ヘグォン議長、イ・ソンオク第一副議長、イ・オサン第二副議長、イム・チュンウォン運営委員長、パク・チャンフン事務局長出席の元、意見交換が行われました。300万人の人口を抱える仁川広域市議会の定数は36名、比例代表4名の計40名であり、任期は2026年の6月末までの4年間です。行政安全委員会、文化福祉委員会など6つの委員会と2つの特別委員会で議会が構成されています。

「仁川×神戸都市提携15周年記念演奏会」が夕方、在外同胞庁ウェルカムセンターにて行われました。演奏者は、仁川側は交響楽団の方々と、神戸側は今回の訪問団メンバー3名（フルート：榎田 雅祥氏、久野綾香氏、下田 幹氏）です。

2日目は、雨の中仁川大公園を視察し、2013年8月に設置されたモニュメント作品名「Home」を見学しました。姉妹都市提携を行った後、2012年3月18日「姉妹都市提携記念 造形物交換 協定書」を締結し、お互いにモニュメントを贈呈することを決定したものです。モニュメント見学はきっかけですが、仁川大公園のデザインおよび整備状況は参考になりました。

午後は、IFEZ（仁川経済自由区域）にてスマートシティ運営センターを視察しました。韓国の経済自由区域は、各種の規制緩和を通じて、外国人投資を積極的に誘致するための特別経済区域とされています。スマートシティシステムを統括する統合オペレーションセンターを見学しました。画像認識機能を持つカメラにより、リアルタイムで人や物の動きを監視し、24時間体制で防災・防犯・交通管理が行われているようです。私からはセキュリティの件で質問しました。

続いて、仁川内港ウォーターフロントを視察しました。1883年に開港した仁川は、大型コンテナ船中心に変わる等の時代の変化に伴い衰退したため、内港の再開発が行われ、文

化・観光・商業・住居などが調和する海洋文化観光複合都市を目指しています。神戸では規模感が異なりますが、ウォーターフロントの再整備が進行中です。神戸での可能性も感じた次第です。

○韓国・大邱広域市訪問

3日目は、大邱広域市へ移動しました。移動の途中で、自然にできた崖の洞窟の中に作られた石窟内に西暦700年頃造成された石仏3体が安置されている国宝「軍威三尊石窟」を見学し、古都の雰囲気を感じることができました。夕方の「韓日交流音楽会～大邱×神戸フルートアンサンブル交流演奏会～」は、「神戸国際音楽祭2025『PRESENTS』応援コンサート」と位置付けられ、韓日の音楽家による合同演奏による文化交流と位置付けられています。

4日目は、ユネスコ文化遺産である「道東書院」を訪問の後、大邱広域市議会を表敬訪問し、イ・マンギョ議長をはじめ10名の議員のお迎えを受け歓談しました。

のち、スマート光通信センターを視察しました。大邱市自家通信網を運営するスマート光通信センターでは、市全域の状況をリアルタイムで把握して対応するため、メインコントロールセンター機能を果たしています。

本市でもスマートシティを目指していますが、行政サービスなどのICT化は進んでいますが、このような市全域の状況を全域で把握するシステムはありません。公安、警察などの権限の違いもあるので本市では難しいとは思いますが、IOT、ICTなどの技術を目的に沿って生かすことは必要かと感じました。

○最後に

議員だけでなく、行政、民間も含めた訪問団にて、神戸空港国際化における記念すべきチャーター便で訪韓できたことは大きな成果となったと思います。神戸市にとって人の流れが大きく変わりますが、経済交流、文化交流、観光など双方の街にとって、引き続き貢献できるよう頑張ってまいります。

4. やのこうじ議員

この度「神戸空港韓国便就航記念」「日韓国交正常化 60 周年」「神戸・仁川 / 神戸・大邱都市提携 15 周年」という記念すべきタイミングで、神戸国際空港から韓国へと大韓航空機の第一便で来韓するチャンスをいただいた。

韓国のハブ空港である仁川国際空港に近づく、まず驚いたことは、空港から市街地を結ぶ橋の長さでは世界 7 番目となる仁川大橋の海上道路であった。空港から仁川広域市議会への表敬訪問に伺う際に、4 年 4 か月もの工期を要し完成した仁川沖を横断する海上道路からの眺めは圧感であった。

韓国の空港内や各種公共施設等では、大型のデジタルサイネージが各所で見られた。街中ではフリー Wi-Fi が使えるところが多く、ソウルと金浦・仁川空港を結ぶ地下鉄車内でも Wi-Fi が使用できた。また、市内各所に防犯カメラを設置し、24 時間体制で監視し市民の安全を確保するなど、韓国のデジタル化の先進性を改めて実感した。

本市においても三宮エリアにおける都心再整備が着々と進んでいる。多様性やバリアフリー化の観点と合わせて、デジタルな時代に都心の利用者が快適に過ごせる韓国の都心部のまちづくりについて大いに共感した。

300 万都市の仁川市、237 万都市の大邱市内には、高層ビルやタワーマンションが林立しまちの活気が大いに伝わってきた。さらに臨海部に埋立地を増やししながら、都市開発が進んでいた。しかしながら、仁川市の 1 企業においては、社員の出産時には、子ども 1 人あたり 1,000 万円の祝金を支給することも耳にした。タワーマンション等の開発が進み、都心部に人口が集中する中、韓国でも日本と同様に少子化が大きな問題になっていることには意外さを感じた。

両都市共に、市内中心部は片道 3 車線以上の道路で、ゆったりとした歩道に桜が植栽され、日本と同じく桜満開の時期と重なり美しい街並みが堪能できた。現在物価高の日本と比べ、仁川・大邱両都市の物価は安定しており、例えば米の価格は日本の半額程度であった。毎食の地元料理には、キムチやナムル、ニンニクなど豊富な野菜が提供され、健康的な食文化が元気の活力につながっていることを体感できた。

あっという間の 5 日間の全行程を無事に終えて仁川空港から帰神時の大韓航空機内で「KOBE International Airport」のアナウンスが耳にとどいた。その時に、改めて神戸の空の港が、遂に悲願を達成できたことに喜びがこみあげてきた。

今回の訪韓を通して、姉妹都市提携を継続している仁川・大邱両都市の先進的なとりくみを拝見させていただいた。この度の神戸⇄仁川直行路線開設を機に、本市と両都市間の国際交流が益々強化され、将来的には神戸⇄大邱間の直行路線の開設実現にも繋がることを大いに期待したい。